

令和 8 年度 川崎市予算案について

令和 8 年 2 月

～ 「選ばれ続ける都市実現」 予算 ～

本市財政は、市税収入等は増収が見込まれているものの、ふるさと納税による減収は拡大し、物価高騰、国の制度変更に対しても臨機に対応する必要があることなど、厳しい環境が続くことが見込まれます。

また、今なお人口増加が続く本市においても、近い将来、急速な高齢化の進行と人口減少社会への転換という、かつてない局面を迎えることが想定されることから、市政運営にとって大きな試練の時代になると考えています。

令和８年度予算につきましては、こうした状況下においても、直面するあらゆる課題に継続的に取り組むとともに、本市が持続的な発展を遂げ、未来の川崎市民にも選ばれる都市であり続けるための取組に対して、重点的に予算を配分いたしました。

今後、「成長」と「成熟」の調和する「最幸のまち かわさき」の実現に向けて、「必要な施策・事業の着実な推進」と、財政の健全化による「持続可能な行財政基盤の構築」の両立に取り組んでまいります。

令和８年２月 川崎市長 福田 紀彦

目次

1	令和8年度 予算案のポイント	P.4
---	----------------	-----

2	令和8年度 重点施策	P.5
	（1）子ども・教育	P.6
	（2）健康・福祉	P.15
	（3）地域の魅力・価値	P.20
	（4）社会基盤・生活基盤	P.27
	（5）経済成長・社会課題解決	P.37

3	予算の規模	P.44
---	-------	------

4	一般会計予算案の概要	P.49
	（1）歳入予算	P.49
	（2）歳出款別（目的別）予算	P.51
	（3）歳出性質別予算	P.53

5	行財政改革の取組	P.55
---	----------	------

6	市債残高の推移	P.56
---	---------	------

7	予算と収支フレーム（改定素案）との比較	P.57
---	---------------------	------

8	予算編成でのさまざまな取組	P.58
	・ 総合経済対策への対応	P.58
	・ ふるさと納税に係る取組	P.60
	・ 身近な施策の財政負担の状況	P.62
	・ 職員採用の取組とカスタマーハラスメント対策	P.63
	・ 令和6年能登半島地震被災者支援等の寄附金について	P.64

I 令和8年度 予算案のポイント

・一般会計当初予算の規模 **9,378億円** (対前年度 +451億円・+5.0%)

- ・ 3年連続の増で、過去最大（当初予算で9千億円を超えるのは初）
- ・ 障害者福祉事業費の増などにより、扶助費は2,637億円（対前年度+66億円・+2.6%）
- ・ 過去の減債基金借入金（599億円）を除いた場合 8,779億円（対前年度 +525億円・+6.4%）

・市税収入 **4,272億円** (対前年度 +224億円・+5.5%)

- ・ 個人市民税及び固定資産税の増により5年連続の増で、過去最大
- ・ ふるさと納税による寄附受入額は55億円、市税の減収額は172億円
(令和7年度当初予算 寄附受入額 38億円、減収額 149億円)

・減債基金新規借入金 **ゼロ**

- ・ 当初予算で減債基金からの新規借入れを行わないのは、平成26年度以来12年ぶり
- ・ 財源対策として財政調整基金から20億円を活用し、収支均衡を達成
- ・ 当初予算での財政調整基金の活用による財源対策は、平成14年度以来24年ぶり